

家庭・学校・地域が育む 子どもたちの“生きる力”



市教育委員会 学校教育課
たなか まさひろ 田中 正浩 教育審議員

豊かな体験が育むもの

少子高齢化やグローバル化など社会構造が大きく変容し、これからの社会は「知識基盤社会」と言われます。知識基盤社会を生き抜くためには、子どもたちに「確かな学力」「豊かな人間性」「健康・体力」から構成される「生きる力」を育むことが重要です。この生きる力を育成するには、校内で行なわれる授業だけでなく、集団宿泊教室・職場体験研修・ボランティア活動などの体験学習や、地域性を生かした取り組みの充実が求められます。体験学習な



えのう ゆうじ 恵濃 裕司 教育長

子どもたちの 輝く笑顔のために

大人が望むのは、子どもたちが現在だけでなく、大きくも輝く笑顔でいられること。その笑顔を次の世代、そのまた次の世代に引き継いでいくことです。大切なのは、大人が決めた枠の中で子どもたちを育てることではありません。子どもたちが自分の生き方について自分で考え、自分の意思で道を選び、自分の力で毎日を充実させることができるよう、生きる力を育むことです。そのために、私たちにできることは何でしょうか。

まずは子どもたちの前を素通りするのではなく、「おはよう」「こんにちは」とあいさつを交わしてみませんか。近所の子は「よその子」ではありません。私たちが住む地域で、私たち全員で育む子どもたちです。一人一人に名前があり、人格があり、意思があります。顔見知りになれば、少しずつ互いへの愛着が生まれ、人



どを通して、子どもたちは豊かな自然や地域住民と触れ合い、学校の学習だけでは学ぶことができないさまざまな力を身に付け、環境を大切にす

る心や人に対する思いやりの心を育んでいきます。また、体験学習や地域性を生かした取り組みは、家庭や地域の人を巻き込むことで、より高い効果を生みます。家庭や地域との連携を強めるため「学校は「開かれた学校」づくりをさらに推進していきます。

※知識基盤社会
新しい知識や技能が、活動の基盤としてさまざまな分野で重要になる社会。知識の習得だけでなく、それを生かす柔軟な思考力・判断力・応用力も求められている。

学校と地域がつくる
地域コミュニティの核
家庭や地域の教育力の低下が心配される中、学校と地域

の結びつきがあらためて重視され、教育改革の柱の一つとなっています。保護者や地域の皆さんとともに子どもの成長を支える仕組みとして、本市でも平成24年度から「合志版コミュニティ・スクール」を推進。学校と地域をつなぐコーディネーターを配置して「学校支援ボランティア」への参加を促し、ボランティアとなった地域の皆さんには授業での体験活動や児童・生徒の登下校見守り、本の読み聞かせ、放課後の補充指導、環境整備などさまざまな場面で活躍してもらっています。

学校と地域の深い関わりは、子ども、保護者、地域住民、教職員など、そこに関わる全ての人の自発的な学びと成長を促し、ひいては子どもたちを守り、地域を守ることにつながり、地域コミュニティ

いの核(結びつきを深める場)となっていくます。

本市の学校教育

少子化・核家族化が急速に進み、人と人とのつながりがますます希薄化している現代。他方では、国際化に適切に対応できる高いコミュニケーション能力を持つ人材の育成が求められています。

本市では、次代を担う子どもたちが夢を持ち、これからの社会で必要となる生きる力を身に付けてほしいと考え、「未来を拓く心豊かな人材を共に育む」という教育テーマを設定。「学校・家庭・地域が一体となり、子どもたちの夢を育み、夢の実現を目指す」という学校教育目標のもと次の3つの重点取り組みを掲げ、学力向上や魅力ある学校づくりを進めています。

- ①小中連携を軸に教育活動の充実を図る
- ②アメニティ快適で魅力のある教育環境を創造し、潤いのある学校づくりを推進する

③教育のICT化を推進し、 教育活動の充実を図る

学力向上、自尊感情の育成、円滑な小中学校の接続、不登校など、解決が求められるいくつかの教育課題。その効果的な解決のため、これまで教育活動の柱としてきた小中連携を軸に、市教育委員会は「小中一貫教育」の導入を進めています。小中学校の教職員が学校の垣根を越え、一体となって「目指す子ども像」を共有。義務教育9年間を通して系統的な教育を行なっていくます。

本年度から小中一貫教育推進校として指定された西合志中学校区では、その在り方を検討するため、平成31年度の導入に先駆けて試行的な取り組みを実施。得られた成果と課題を活用するとともに、学校と地域が一緒になって子どもたちに関わりながら、子どもたちの力を一層向上させることのできる効果的な教育を行なっていくきたいと考えています。

に愛着が湧けば地域にも愛着が湧いてきます。

地域ぐるみで 子どもを愛する

子どもたちは学校や地域社会との関わりの中で、誰かに支えられていること、人が協力する尊さを学びます。子どもたちと関わり続けること。子どもたちの意見を聴き、受け止めること。子どもたちが多くのことを経験する機会をつくること。今回紹介した2つの小学校の取り組みは、学校、保護者、地域が協力してそれを実践したものです。こうした取り組みは他の学校でもさまざまな形で行なわれており、学校と地域の連携の輪が広がっています。

一人一人の小さな行動は、地域の中で大きな取り組みにつながり、その積み重ねが「地域ぐるみで子どもを愛する」ということにつながるのでないでしょうか。愛のある優しい地域。それをつくる力は、私たち全員にあります。